

矢作川流域圏懇談会通信

R3 山部会編 vol.1



発行日：令和3年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第59回山部会WGを開催しました！

6月25日(金)、第59回山部会WGを、新型コロナウイルス予防対策を徹底した上で根羽村にて開催しました。今回のWGは、活動の進捗報告と今年度の活動目標、バスツアーの内容、公開講座について話し合いました。また、矢作川水系流域治水プロジェクトについて報告と協議を行いました。

日時：令和3年6月25日(金) 13:30~17:05

場所：根羽村老人福祉センター しゃくなげ

参加者：20名(内オンライン参加8名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 令和3年度の矢作川流域圏懇談会の開催方針・矢作川流域圏懇談会について(設立要旨・規約)



- ・緊急事態宣言発出期間(まん延防止等重点措置発出期間を含む)中の開催方針、平常時の開催方針について事務局より説明がありました。今回のWGは、対面形式の人数を最小限とし、オンライン会議に重点を置いた方式で実施しました。
- ・今年度最初のWGであることから、矢作川流域圏懇談会の設立要旨・規約等について確認を行いました。

2. 令和2年度までの活動進捗報告・今年度の山部会の活動目標



令和2年度の活動進捗、令和3年度の活動目標について、4つのテーマごとに以下の報告がありました。

■流域圏担い手づくり事例集

- ・令和元年~2年度は、事例集に関する作業を休止し、流域圏懇談会10年誌としてこれまでの活動の整理を行った。
- ・令和3年度は、流域圏担い手づくり事例集の作成を再開する。作成に当たっては、①都市住民を巻き込んだ先進的な活動への取材、②新しい取材候補団体などへの取材 など、取材方法を工夫しながら事例集作成を進めていく。

■森づくりガイドライン

- ・令和2年度は、国や市町村の森づくりについて情報交換しながら、ガイドライン作成を進めた。
- ・令和3年度は、流域市町村の森林に関するデータや計画について情報収集し、WGにおいて協議する。森林が、洪水や水資源にとってどのような役割を果たしているかについて、矢作川水系流域治水プロジェクトの動向とともに協議する。

■山村ミーティング

- ・令和2年度は、「流域の森づくりガイドライン」を策定することを目標に、林業技術者の意見収集、地球環境基金の助成金への応募、矢作川感謝祭への参加などを行った。
- ・令和3年度は、「矢作川水源の山づくりガイドブック策定会議」と連携しながら、林業技術者が科学的に信用でき、科学的データを踏まえた山仕事を習い、実践していくことを目指す。
- ・9/5に予定されている矢作川大感謝祭に参加する。

■木づかいガイドライン

- ・令和2年度は、「木づかいガイドライン」を作成することを目標に、地域住民や子どもたちへの木づかいの場の提供を行った。「木づかいライブ・スギダラキャラバン」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くのイベントが中止となったが、岐阜女子大学、愛知教育大学などの木育関係での取り組みを行った。
- ・令和3年度は、市民を対象とした木づかいに焦点を当て、身近な生活空間の中に木のアイテムが入っていく活動を進めていく。また、コウヨウザンの試験植栽、末木枝条のチップ化や木質燃料としての活用、技能職員がリードする森林空間利用など、「かっこよく、クリエイティブで、希望をもって輝いている」ことを目指した活動を推進する。

3. バスツアーの内容について



11月25・26日に実施予定のバスツアーの内容、工程について確認と協議を行いました。山部会では、つくラッセルの現地視察の追加などについて今後のWGで再検討していきます。

4. マイクロプラスチック公開講座について



7月31日開催予定のマイクロプラスチック公開講座の内容について事務局から説明がありました。流域圏懇談会を外に発信していくため、広報の方法、外部団体との連携などについて話し合いました。

5. 矢作川水系流域治水プロジェクトについて



国土交通省が推進している「矢作川水系流域治水プロジェクト」について、事務局より説明がありました。本プロジェクトでは、事業を「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」「被害対象を減少させるための対策」「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」の3つのカテゴリーに分け、国・県・市町が一体となって流域治水を推進していきます。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域圏担い手づくり事例集

- ・「名古屋市長者町を中心とした木質化プロジェクト」について教えてほしい。(今村)
 - ▶ 旭木の駅プロジェクトで出てきた木材の一部を使って、まちづくり、中心市街地の活性化の一環としての木材の活用を行っている。ウッドデッキや内装材など、長者町のまちづくりで旭の木材を活用している。(洲崎)
- ・「森と子ども未来会議」はどのような活動なのか。(今村)
 - ▶ 学童保育と連携し、流域の木材を使って、学童保育の学び舎を作る活動。学童の学び舎を作ると、「木材の出た山に行こうよ」という話しになり、木育や森林学習にもつながっていく。(丹羽)
- ・都市との関係は重要と思う。山の恵みを活かすということで都市の役割を考えていく。(近藤)
- ・取材数を絞り、コロナ禍でもがんばっている人を励ますという意味合いも含め取材を継続していきたい。(洲崎)

●森づくりガイドライン・山村ミーティング

- ・岡崎市の水源条例の動きはどうか。(今村)
 - ▶ 水環境基本計画が新しくなった。水循環計画に基づいて森林を整備していく内容も記されている。(蔵治)
- ・現場の林業技術者の意見はけっこうある。矢作川流域山づくりWSには、多くの組合員を参加させたい。(今村)
 - ▶ 1年目は各組合2名と参加人数を絞っていくが、2年目からは人数を広げる方向で検討したい。(蔵治)

●木づかいガイドライン

- ・ウッドショックで木材価格が高騰していることは、ある意味チャンスかと思う。(今村)
- ・広葉樹を活かしたカトラリー製作の講座をやっているが、非常に人気がある。ウッドデッキやマウンテンバイクコースなどとセットにした森林空間づくりに取り組みたい。(今村)
- ・組手什などで林業に関心を持つ人が増えてきていると思う。林業に目が向いている時なので、この機会を逃さないようにしたい。(高橋)

●矢作川水系流域治水プロジェクトについて

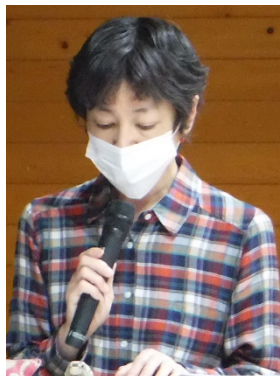
- ・流域治水で何が変わるのかが見えない。また、法的に何が進むのかが見えない。(近藤)
- ・流域全体からやるべきことを明示するとよい。流域全体をみてはじめてわかることもある。(洲崎)
- ・矢作川流域圏懇談会は山・川・海の部会があり、流域治水という視点での存在意義は大きいと思う。(近藤)
 - ▶ これは治水に焦点を当てた整理だが、河川整備の目的には利水や環境などもある。森林には多目的・多面的な機能があり、そのひとつが治水。そういう議論をやれるのが流域圏懇談会であり、役割・意義と考える。(蔵治)

●バスツアーの内容について

- ・つくラッセルは現場で説明が聞けるとよい。奥矢作レクリエーションセンターからつくラッセルに移動するのは時間的に可能かどうかという点は要検討。(洲崎)
 - ▶ バスツアーの最終決定は9月を予定している。その前までに可能かどうか検討する。(事務局)
 - ▶ バスツアーにつくラッセルの現場を盛り込むのが難しい場合は、合同勉強会など別の機会に計画してもよい。(洲崎)

●マイクロプラスチック公開講座について

- ・山部会で言われていた「もっと外に」という流れを受けて公開講座を実施する。もっと多くの人に加わってもらうということで、流域内の大学、学生にも関わってもらうことを計画している。(近藤)



今後のスケジュール (予定)

次回の山部会ワーキング・フィールドワークは、8月27日(金)・28日(土)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 佐藤、専門官 竹下、技官 木村

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8129

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所 調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

